

地域高規格道路松本系魚川連絡道路意見交換会まとめ

市町村名	豊科町			
開催日時	第1回 9月20日(木)	第2回 10月12日(金)	第3回 11月2日(金)	第4回 11月20日(火)
1. 道路行政全般について	<ul style="list-style-type: none"> 高規格道路は利用者負担がなく、県民一人当たり約6万円の負担。高規格道路建設の予算確保ができる場合、既設道路整備、高速道路償還の前倒し、道路特定財源の特定税率引下げまたは廃止、自動車から公共交通や自転車へ方向転換、社会福祉など道路整備以外へ転換を提案。 税金の使い道として、道路整備より優先順位が高い項目として福祉(医療・高齢者対策)・景気対策など。 		<ul style="list-style-type: none"> 国土を守り、環境を美しく育てる視点で仕事してほしい。 	
2. 地域の課題、問題点(まちづくり、自然、生活)	<ul style="list-style-type: none"> 提供された資料にもあったとおり、すでに既存の道路は飽和状態にあり、渋滞の著しい地域は排気ガスや騒音の被害を最大限に受ける結果となっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 高規格道路による医療サービスより、地域医療の充実が効率的で確実なサービスが提供可能 高速長野道とオリンピック道路により、白馬以南は整備されたから必要性は薄い。 この道路について徹底的周知を図り、県民、行政が必要性再検討することを要請。 IT化が進む中、高速道路が商圈、文化圏の交流に大きく影響するとは考えられない。 道路ができれば渋滞箇所は緩和するが、車の総量が増え、新たな場所で渋滞問題が発生。 公共交通(TR、バス)の利用を考えて自然を守ることが必要。 	
3. 道路の必要性(建設の是非)	<ul style="list-style-type: none"> 新しい道路の建設は経済交流などメリットも大きい。また、人が生活していく上でどうしても必要なものならば建設すべき。 大町以北の道路状況を考えると道路を必要と思う。 新しい道路が建設されれば交通量が分散し、一ヶ所集中型の交通渋滞が緩和されるでしょう。マイカーで訪れる冬季間のスキー客や行楽シーズンの観光客が何本かの道路に分散され、豊科インター付近の渋滞は相当緩和されるのではないかと。 		<ul style="list-style-type: none"> 行政から提示されたメリット、必要性和対費用効果を加味すると高規格道路は必要ない。 渋滞緩和のために多額の投資は避けるべき。莫大な税金をかけて、自然を破壊しない。 長野新幹線開通で観光客流入が期待されたが、スキー人口も、他の観光地も減少。オリンピック開催に伴う道路整備、高速交通網整備で道路利用者数が増加する一方、沿線市町村の事業所数、滞在型観光の減少。高規格道路で産業や観光は活性化しない。 道路新設は広域的振興と利便性は向上するが、あづみ野の魅力は失われ、公害を残し、地域住民にとってプラスではない。 安曇野に高速道路は似合わない。再検討の上、計画を中止し郷土をこれ以上傷つけない。 盛土工法は景観を損ね、優良な土地を潰し、自然を破壊する。新しい道路建設が必要か疑問。 安曇野の良さは自然と景観にあり、高架で縦横断してはいけない。 車の総量が増えるのだから、一台当たりの排気ガス排出量が減っても変わらない。車の総量が上回れば逆効果。 安曇野には南北に3路線、オリンピック道路があり、東西にもいくつかの路線があり、田沢堀金線も整備が進み、いまある道路の整備が必要。 住民が望むのは自動車専用道路ではなく人中心の道。交通弱者へ配慮した既存道路の充実。 大町以北での問題も、1本しかない生活道路を増やせば対応できる。必要なのは生活道路で高規格道路が生活道路の代用になるか疑問。 白馬、小谷の人達が必要なのは高規格ではなく今の道路整備。高規格道路は白紙に戻す。 	
4. 整備手法、ルート案	<ul style="list-style-type: none"> ルートについては「高瀬川左岸経由・豊科ICルート」がいい。 大町以北へのアクセス道路として住宅地、農地への影響が少なく、豊科IC～高瀬川左岸へは高架バイパスで連絡。観光面からは、梓川PAを拡張しシャトルバスで周遊を促す 高架で横断し、アルプスの眺望という財産を壊せば元に戻らず、後世に申し訳ない。その点、高瀬川堤防ルート案は問題が少ない。しかし、国営公園アクセス道路問題が置き去りにされるおそれがあり、この解決が条件となる。 予定のルートでは自然を破壊する、優良農地や住宅地が多くつぶれ補償費もかさむというデメリットがある。堤防道路(オリンピック道路)を拡張すればこれらを解決できる。 オリンピック道路による重柳交差点以西の県道の交通量は半減、周辺施設は打撃を受けている。アクセス道路の工夫や既存道路との共存を考慮した道路建設を望む。 		<ul style="list-style-type: none"> 松本系魚川連絡道路の見通しが立たない中、国営公園工事はさらに進展し、公園がオープンすれば、豊科町内の既存道路沿線住民に公害をもたらすことは明白。非科学的ごり押しは容認できない。 最新の交通量調査や環境測定を行い、交通許容量を超えない保証がなければならない。公園オープンとアクセス道路の確立の整合性が必要。 メリットが強調されていたが、必要性、対費用効果から高規格道路建設は必要ない。また、結論に従い分析的、科学的な計画だが、デメリットの分析が甘く、弱く、シミュレーションは説得力に欠ける。 計画、立案に人間の生活、生き方に哲学的視点が乏しく、高規格道路の安曇野縦断に反対。 道路建設前提の実施側説得資料は計画の具体性を求める者には有効な情報。公共工事は一般市民が情報不足、無知な状態で実施されてきた。感情的、直感的ではなく、資料に基づいた反対。 	
5. 今後の進め方について				
6. 意見交換会について	<ul style="list-style-type: none"> この道路の企画について、県民に徹底的な周知を図り、県民、行政が必要性について再検討することを要請する。 豊科町内横断通過ルート案は住民に公開されておらず、論議されていない。 		<ul style="list-style-type: none"> 豊科町では意見交換会の参加者が6～10人と非常に少なく、我々の意見が住民の全てを網羅していない。参加できなかった人の考えもヒヤリングして下さい。 膨大な資料提供と、時間、知識不足だったが、4日間8時間余りの話し合いは得るものが大。 	

意見の多少に関わらず、主な意見を載せています。